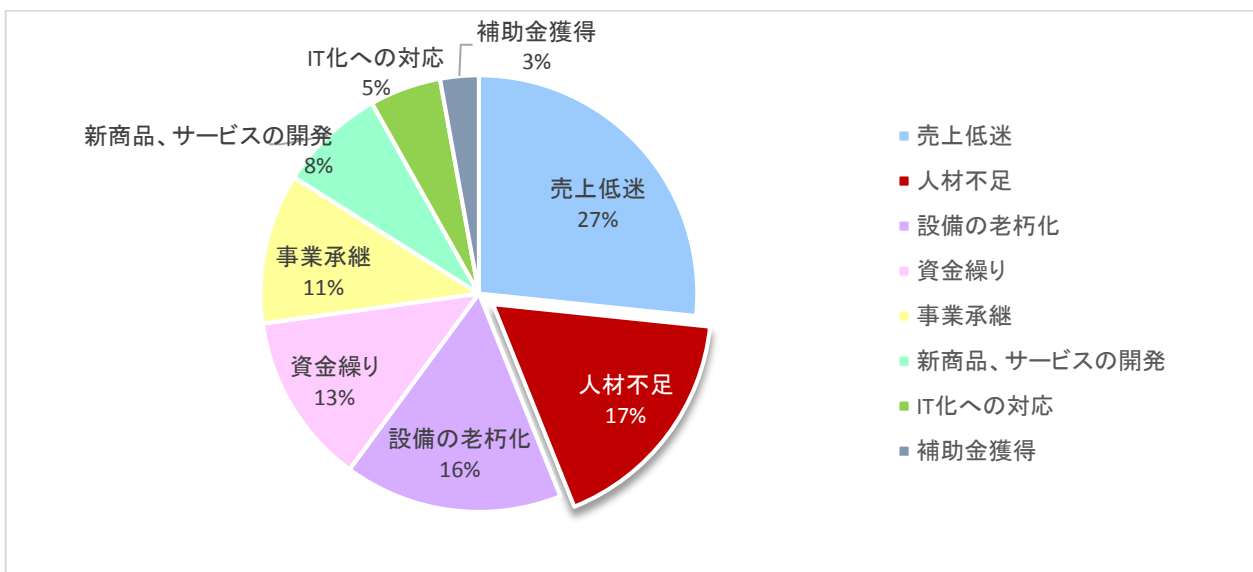
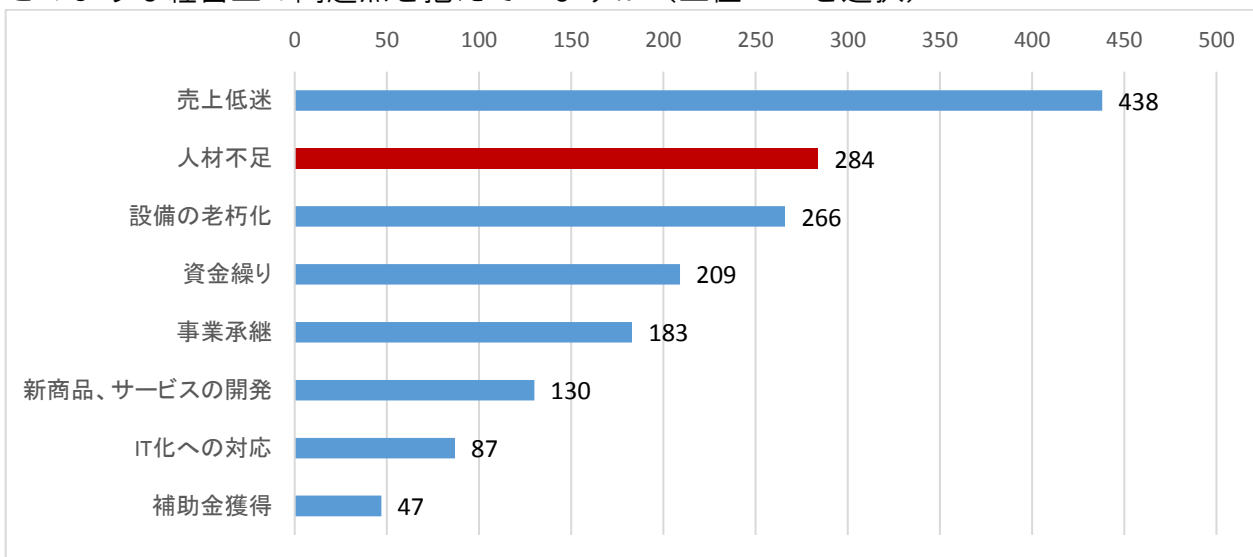


全国的に人材不足は中小企業・小規模事業者の経営上の大きな不安要素とされていますが、平成 28 年 6 月～7 月に出羽商工会で実施した経営実態調査(対象者:商工会員 800 人)でも、経営上の課題として売上低迷に次いで回答が多かったのが「人材不足」でした。

管内の人口構造等から、この人材不足の課題がどのように変化していくのか、またその対応について考えてみました。

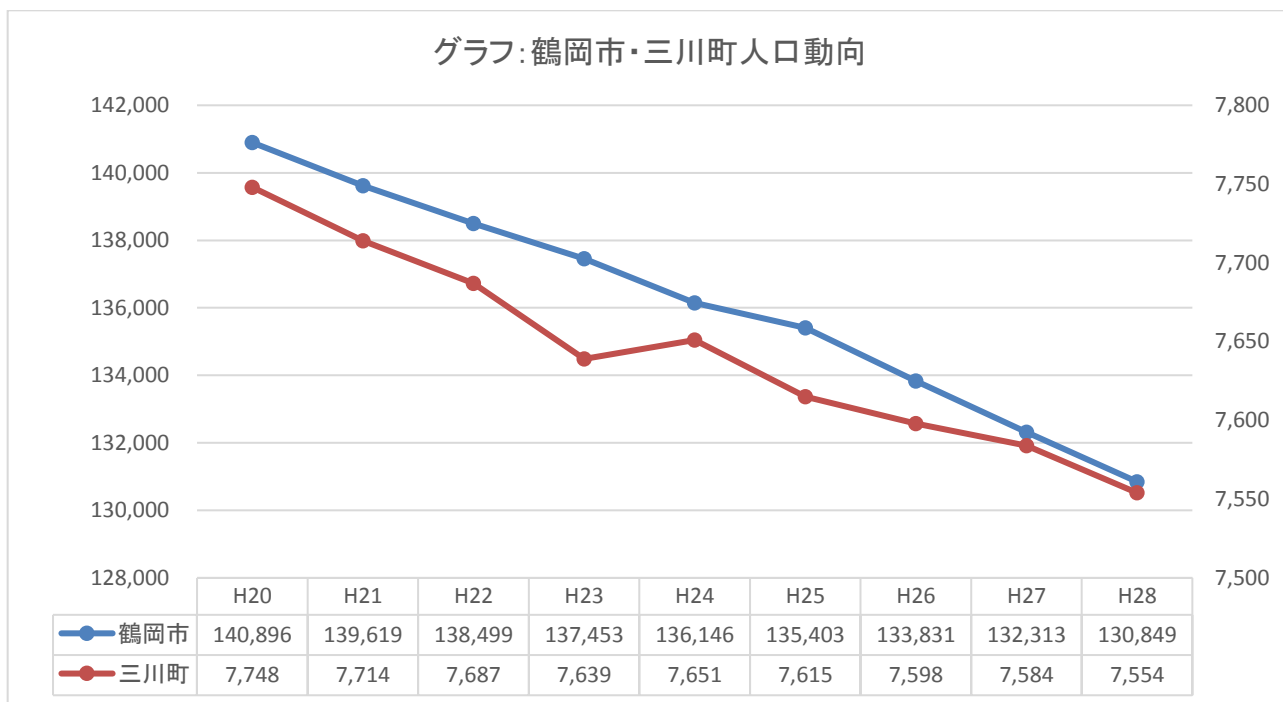
1. 今後の経営課題（平成 28 年度出羽商工会実態調査から）

どのような経営上の問題点を抱えていますか（上位 3 つを選択）



資料：出羽商工会経営実態調査（平成 28 年度）

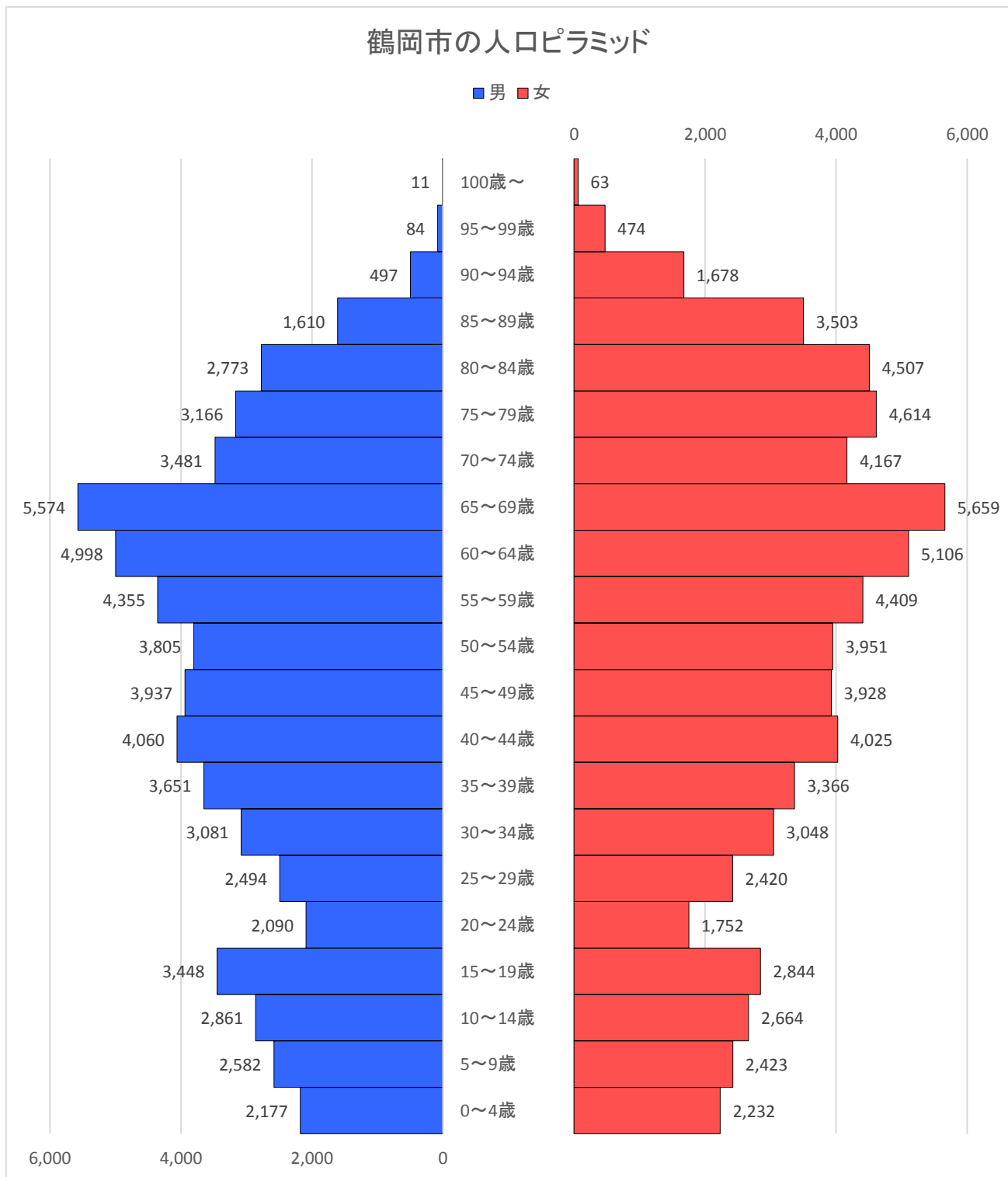
2. 鶴岡市・三川町の人口



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
鶴岡市	140,896	139,619	138,499	137,453	136,146	135,403	133,831	132,313	130,849
鶴岡	96,854	96,130	95,605	95,159	94,619	94,477	93,688	92,918	92,045
藤島	11,657	11,565	11,465	11,329	11,137	10,999	10,847	10,696	10,516
羽黒	9,394	9,351	9,233	9,145	9,046	8,947	8,814	8,681	8,592
櫛引	8,166	8,062	7,982	7,914	7,783	7,699	7,605	7,480	7,437
朝日	5,212	5,093	5,002	4,926	4,834	4,759	4,615	4,488	4,400
温海	9,613	9,418	9,212	8,980	8,727	8,522	8,262	8,050	7,859
三川町	7,748	7,714	7,687	7,639	7,651	7,615	7,598	7,584	7,554
合計	148,644	147,333	146,186	145,092	143,797	143,018	141,429	139,897	138,403

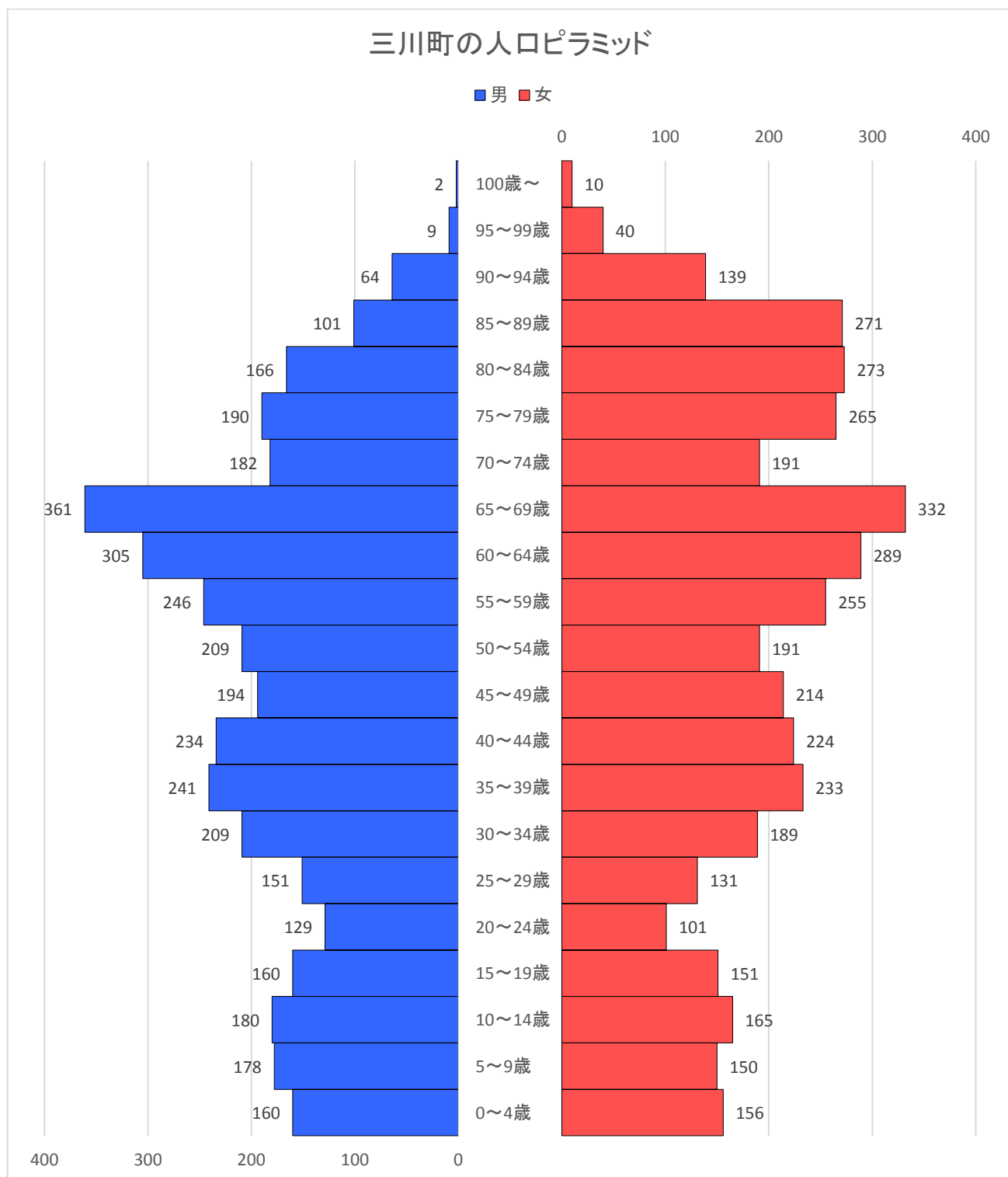
(出典：鶴岡市・三川町)

鶴岡市・三川町共に人口は減少傾向にあり、平成20年と平成28年を比較すると、鶴岡市全体で7.13%、三川町では2.5%の減少となった。なかでも温海地域と朝日地域における現象が顕著である。純然な自然減等の他、市内における他地域への転居などもその要因と見込まれる。



※年齢不詳は除く

「平成28年山形県の人口と世帯数」(山形県企画振興部)を加工して作成



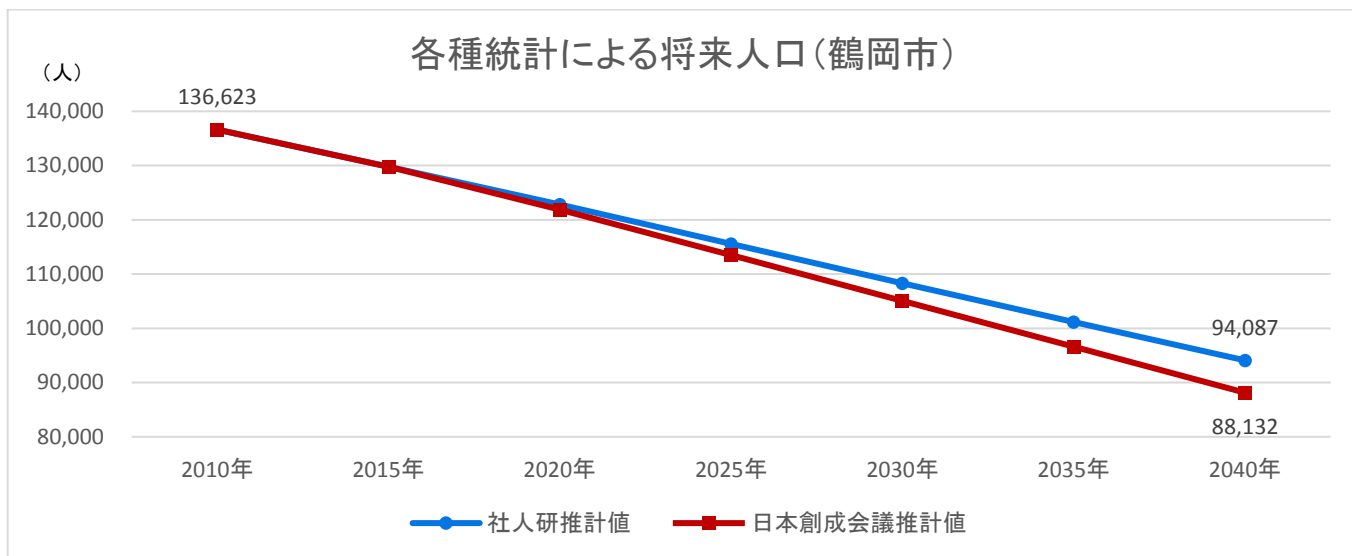
※年齢不詳は除く

「平成28年山形県の人口と世帯数」(山形県企画振興部)を加工して作成

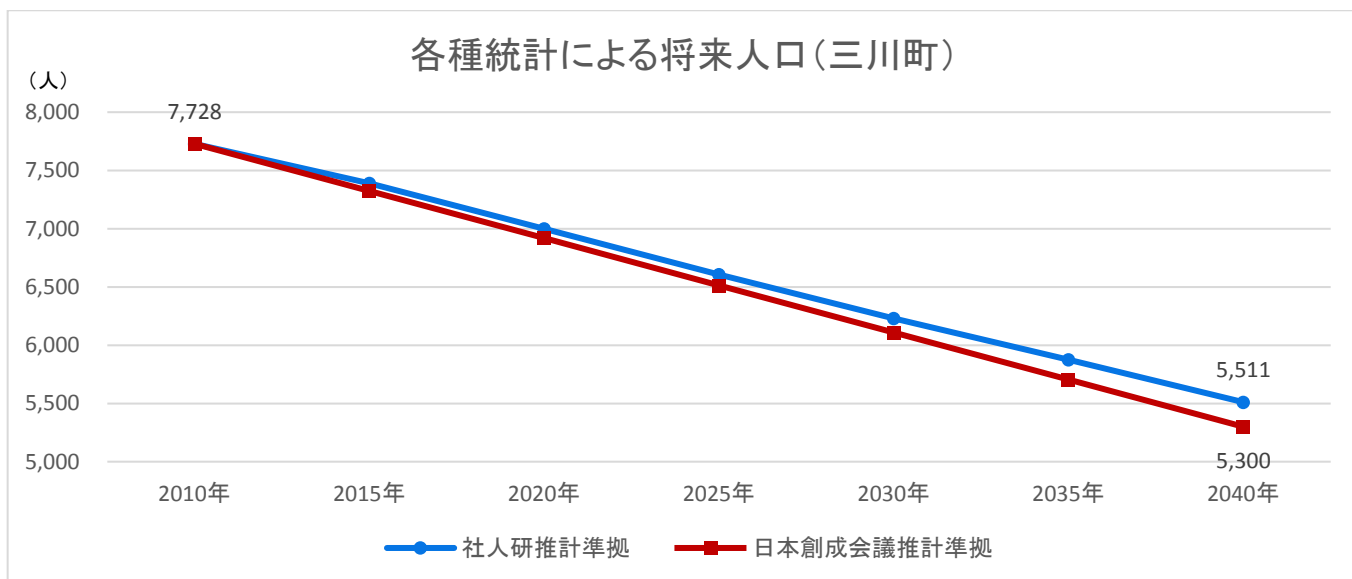
人口ピラミッドを見てみると、鶴岡市・三川町ともに年少人口が少なく、少子高齢化の進行と将来人口の減少が予想される。20歳～24歳で減少しているのは、県外への進学や就職によるものと思われる。

15歳から64歳までの生産年齢人口では、年齢が低くなるほど人口が減少しており、今後生産年齢人口の減少はさらに進むことが予想される。

3. 将来人口の推計と分析（鶴岡市・三川町）



出典：鶴岡市人口ビジョン



出典：三川町人口ビジョン

- ① 社人研推計値
純移動率を 2015～2020 年にかけて定率で縮小させ、以降の期間については縮小させた値を一定として仮定したもの。
- ② 日本創成会議推計値
社人研推計値に用いた純移動率を人口移動が収束しないものとして仮定したもの。
※純移動率：流入数と流出数の差

いずれの推計値においても鶴岡市では 2040 年の人口は 10 万人を、三川町では 6 千人を下回る見込み。

社人研推計値と日本創成会議推計値とでは鶴岡市で約 6,000 人、三川町では 200 人の差が生じており、人口減少を抑制するために純移動率の影響が大きいことがわかる。

地域経済動向 vol.3 小規模事業者の人手不足対応

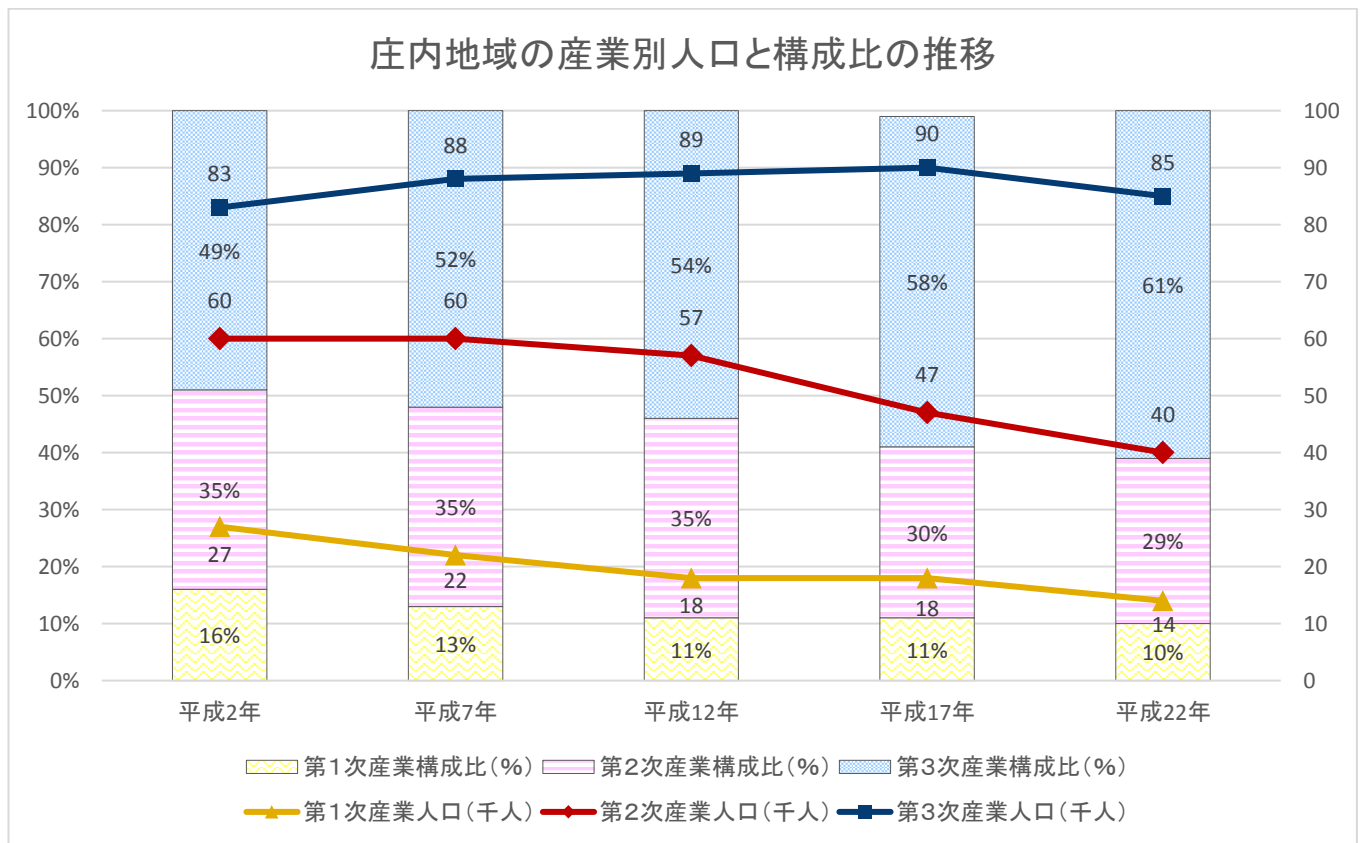
4. 庄内地域の産業別就業人数の推移

(単位：千人、%)

		平成 2 年		平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年	
		人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
山形県	就業人口	656.9	100.0	657.2	100.0	642.6	100.0	611.4	100.0	566.0	100.0
	第1次産業	104.9	16.0	84.9	12.9	71.0	11.1	66.1	10.8	55.6	9.8
	第2次産業	234.6	35.7	231.9	35.3	223.3	34.8	186.7	30.5	164.0	29.0
	第3次産業	316.9	48.2	339.7	51.7	347.5	54.1	355.6	58.2	336.6	59.5
庄内	就業人口	170.8	100.0	170.0	100.0	163.9	100.0	154.1	100.0	141.9	100.0
	第1次産業	27.4	16.0	21.6	12.7	17.6	10.7	17.5	11.3	14.4	10.2
	第2次産業	60.3	35.3	60.2	35.4	57.4	35.0	46.6	30.3	39.9	28.1
	第3次産業	83.0	48.6	88.1	51.8	88.8	54.2	89.8	58.2	85.4	60.2

※業種分類不能があるため、就業人口と産業別就業人口の合計は一致しない。

資料：国勢調査



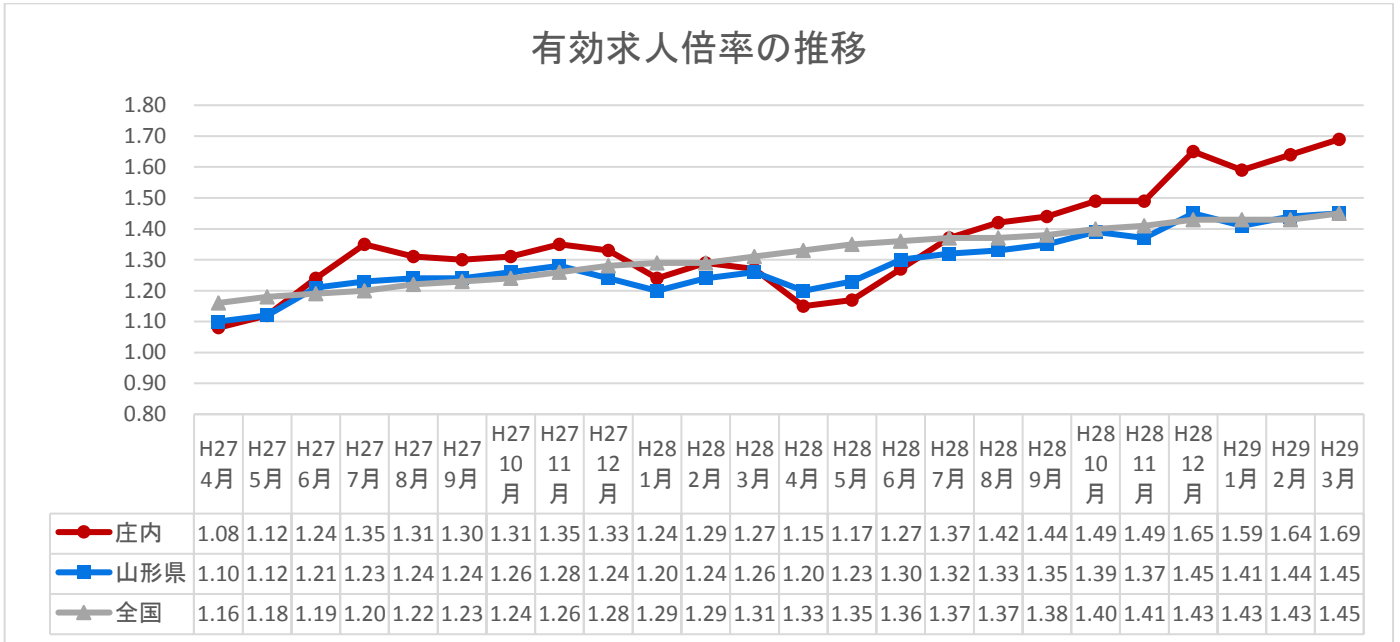
資料：平成28年度版 庄内地域の概況（山形県庄内総合支庁）

平成22年の庄内地域の就業人口は、前回の平成17年と比較してみると、**第1次産業及び第2次産業では、人口数と構成比がともに減少している。**

第3次産業の人口数は平成2年から平成17年までは微増しているが平成22年ではやや減少している。第3次産業の構成比は増加しており、山形県全体をみても同様の傾向になっている。

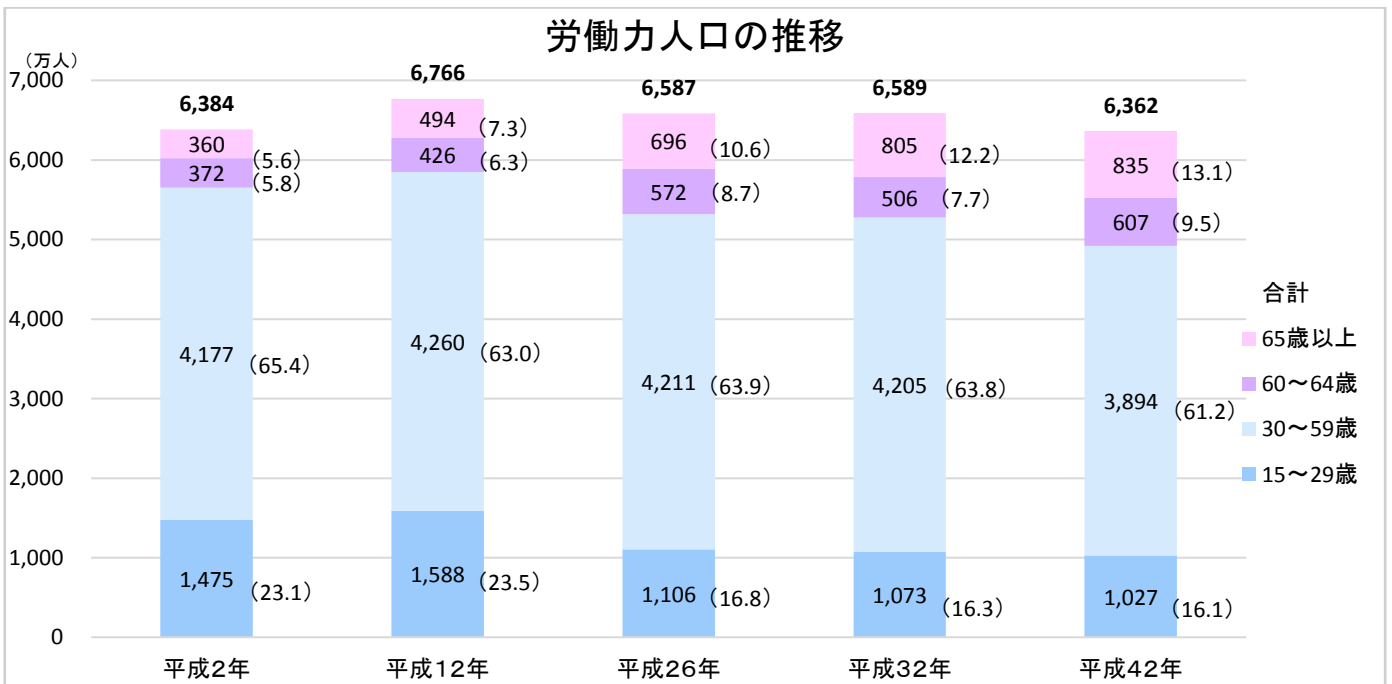
地域経済動向 vol.3 小規模事業者の人手不足対応

5. 雇用動向



※庄内・山形県は現数値、全国は季節調整値

資料：労働市場月報（労働局）を加工して作成

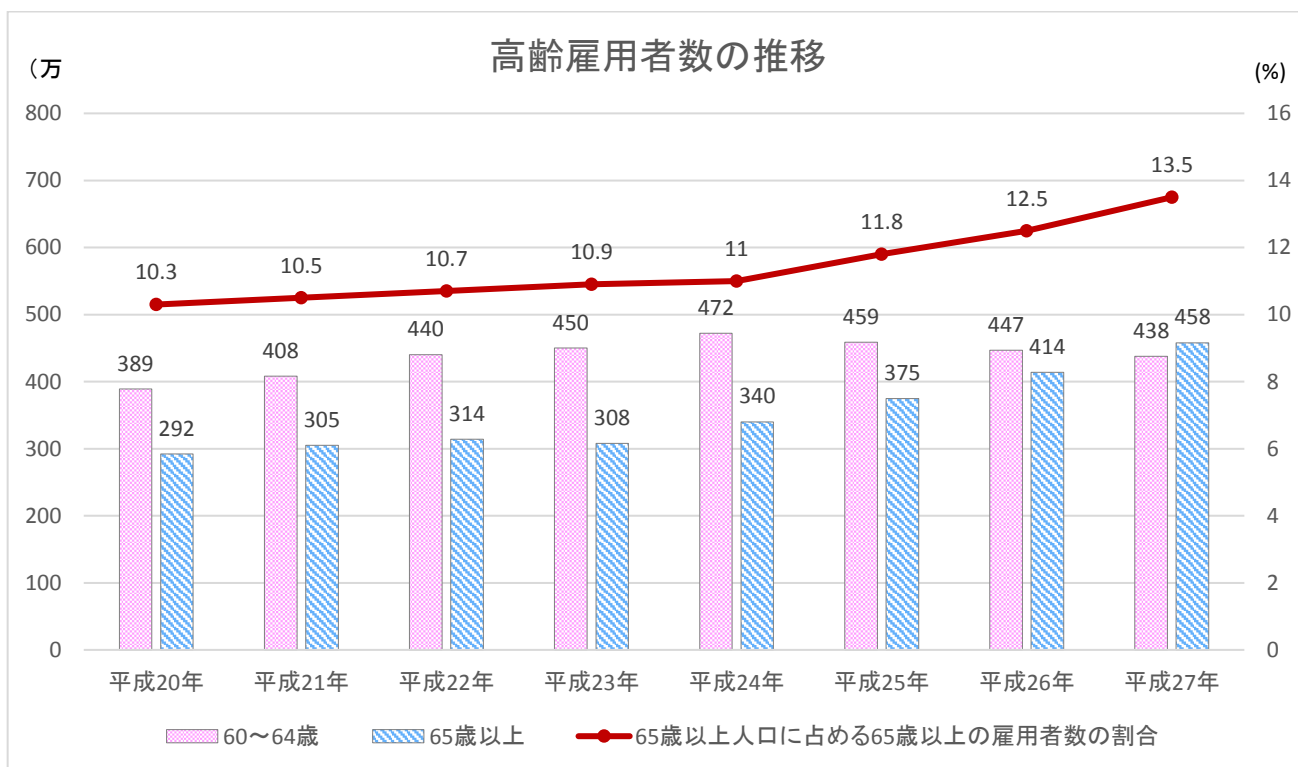


※()内は構成比、表章単位未満の位で四捨五入してあるため、各年齢区分の合計と年齢計とは必ずしも一致しない。

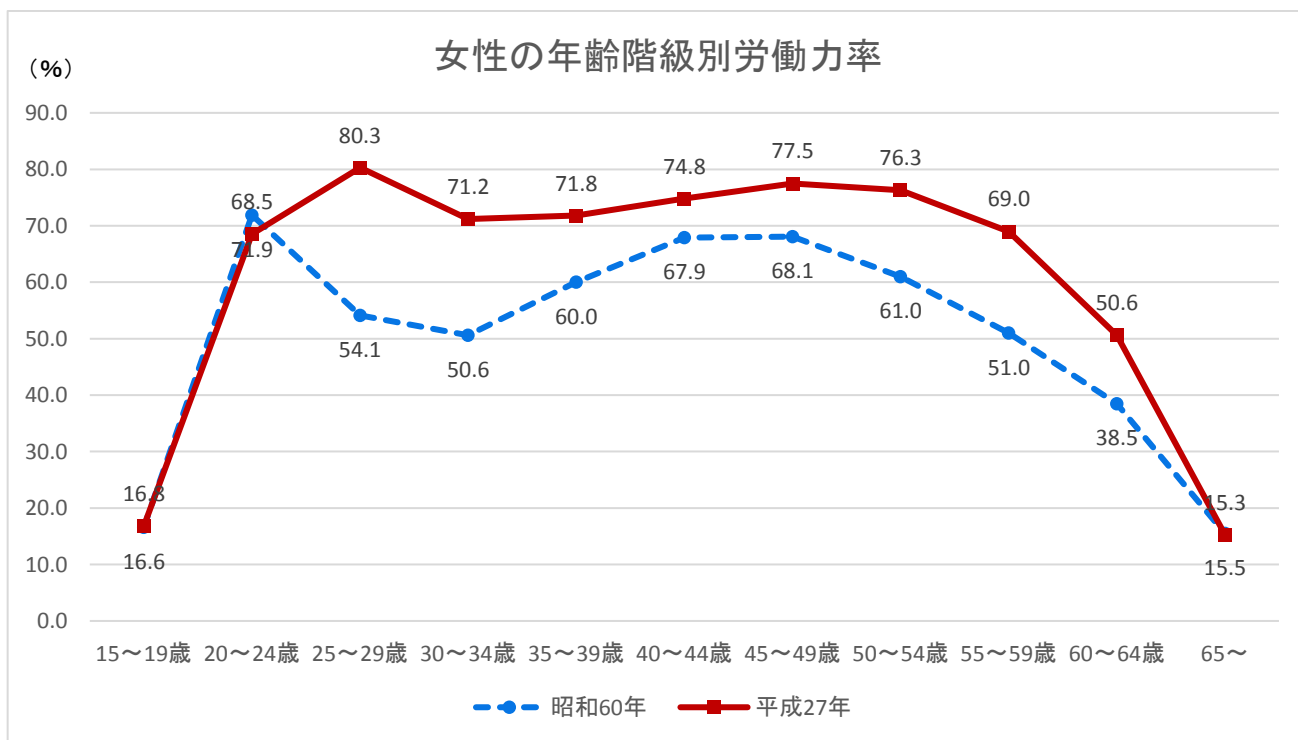
資料：平成2年、平成12年、平成26年は総務省統計局「労働力調査」、平成32年
平成42年はJILPT（独）労働政策研修・研修機構「平成27年労働力需給の推計」

平成42年の労働力人口を平成26年と比較してみると、60歳以上の労働力人口で174万人の増加を見込んでいるにもかかわらず、全体では225万人の減少が見込まれている。
前掲（P3、P4）の人口ピラミッド（鶴岡市・三川町）でも若年人口は減少傾向にあり、管内においても生産年齢人口の減少は今後ますます加速することが予想される。

6. 高齢者・女性・外国人労働力の推移

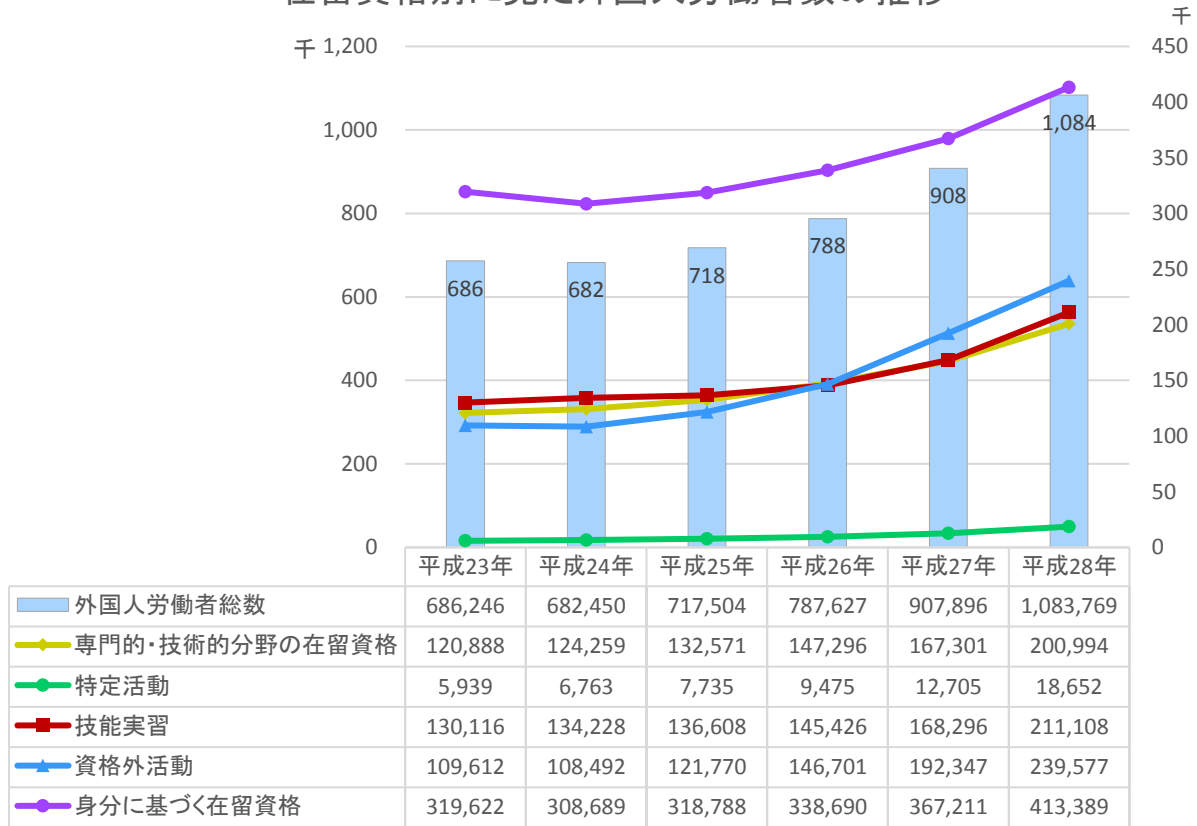


出典：内閣府「平成28年版高齢社会白書（全体版）」



出典：総務省「労働力調査」（昭和60年、平成27年）

在留資格別に見た外国人労働者数の推移



厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況（平成28年10月末現在）」を加工して作成

今後、管内の人口、特に生産年齢人口の減少はさらに加速し、同時に高齢化もここ数年で一気に加速することから、消費する側よりも生産・供給する側が速いスピードで減っていくことになり、全業種にわたり慢性的な人手不足に陥ることが予測される。

こうした中で、女性・高齢者・外国人等の多様な人材に視野を広げて人材を発掘・確保・定着させていかなければ、企業として生産力を維持することが難しくなるとの見方が一般的である。

◆人手不足対応の考え方として、中小企業庁のガイドラインを紹介します。

中小企業・小規模事業者人手不足対応ガイドライン（中小企業庁経営支援課）より

基本的な考え方～人手不足対応の基本的な考え方～

- ✓ 経営課題として深刻化する人手不足を改革・成長のための機会と捉え直す。
- ✓ 女性、ミドル、シニア、外国人等の多様な人材に視野を広げ、働き手の立場にたった職場環境整備等を進め、人材を確保する（掘り起こす）。
- ✓ IT導入や設備導入、人材育成等により、労働生産性を向上する。

基本的な考え方～職場環境整備は人材確保・離職防止に有効～

- ✓ 人材確保できている企業は採用、職場環境、賃金、福利厚生、教育、人事に意識が高い。
- ✓ 離職原因は上司との人間関係や業務内容、賃金、職場環境。
- ✓ 労務管理や意思疎通、人事管理等の職場環境整備は人材確保・離職防止において重要。